

令和元（２０１９）年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立大国小学校

令和２（２０２０）年３月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

平成 29 年 3 月の「大阪市教育振興基本計画」の改定において、「最重要目標」として、

(1)子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

(2)心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

が掲げられた。この最重要目標に即して、現状と課題を明らかにしたい。

(1) 子どもが安心して成長できる安全な社会の実現

○子どもの安全確保について

保護者・地域・関係諸機関と連携を図り、通学路等の安全確保に努めてきた。年度末の保護者アンケートでは「学校は子どもの安全確保について、積極的に取り組んでいる」とした肯定的な回答は 94%であった。本年度も 90%以上を維持し、事故 0 を目指していききたい。また、今後も地域と交流を深め、子どもの安全確保に努めたい。

警察と地域と連携し交通安全教室や、土曜授業で消防署と地域と共同で防災訓練を実施してきた。本年度も引き続き実施する。

さらに個々の家庭との連携を深め、子どもの生活実態の正確な把握に努めたい。問題等が把握されれば、諸機関（子ども相談センター、子育て支援室、民生委員協議会、連合町会）等と協議し改善に努めるようする。また、地域社会から孤立する家庭や子どもをなくすために、社会福祉協議会、地域活動協議会と連携し、「こども食堂」等を通し、地域とのかかわりを深めていくようにしたい。

○暴力行為、いじめについて等について

子どもは授業中も落ち着き、縦割り活動でも上級生が低学年の面倒をよく見て、優しく接している。友だちともめたり、言い合いになったりすることがあるが、話し合いで解決できており、暴力行為に発展することはない。

自分の思いや気持ちをうまく伝えることができない子どもがトラブルになりやすい傾向がみられる。学校アンケートでは「先生や友だちに自分の思いや気持ちを話せている」という質問の肯定的な回答は 70%に留まっている。

経年調査質問紙の「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目では 4 学年の平均が 80%を上回っている。さらに全学年 85%以上をめざしたい。また、昨年度のいじめアンケートでは 100%解消することができた。本年度も教職員のいじめの認識を高め、教職員が子どもの話に耳を傾けるなど日常の子どもとの対話を重視し、早期発見、早期解決を図り解消率を維持していききたい。

○不登校児童について

昨年度は不登校児童が 2 名いた。子ども相談センター、区の子育て支援室、主任児童委員とも連携をとり、改善に向けて取り組んでいる。本年度中に登校できるよう、保護者との対話をさらに進めたい。

○あいさつ運動について

伝統的に朝の「あいさつ運動」に努力していた。昨年度の児童アンケートでは「毎朝、元気よくあいさつしている」の肯定的な回答は 83%であった。民生委員の方々

が毎週正門に立ち、あいさつ運動に参加していただく計画を立てている。自分と関わる多くの人たちと自然にあいさつを交わすことができるようにしていきたく。

○地域の伝統産業とのかかわり

「大阪らしさを活かした取り組み」として、地域の伝統産業である「かわ・皮・革」についての学習を、全学年を通して行っている。学習にあたっては、**地域のサポート**をいただいたり、**児童が太鼓演奏で地域に発信**したりするなどして、**地域との交流**を図りながら、地域のよさや命の大切さに気づく貴重な実践を行っている。この本校の伝統的な特色ある取り組みを継続して行っていく。

(2) 心豊かに力強く生き抜き未来を拓くための学力・体力の向上

① 学力の向上について

○全国学力・学習調査・学力経年調査について

学力学習調査では、全科目大阪市の平均を下回った。学力経年調査の結果においては、標準化得点を、3年 96.3 4年 94.8 5年 90.3 6年 89.8 とすべての学年が大阪市の平均を下回った。各学年の正答率と家庭環境の状況等をクロス分析した結果、子どもの**家庭での生活環境が大きく結果に影響**していることが明らかになった。

○質問紙調査から

質問紙調査よりは自尊感情や自己有用感が高まりがみられる。その中で、質問紙調査の「学校の授業時間以外に、ふだんどれくらいの時間、勉強していますか」の質問に着目すると、「30 分よりすくない」と答えた児童の正答率は明らかに低い結果となっている。これまでも家庭学習の啓発を図ってきたが、今後も家庭学習ができるように工夫するとともに、家庭で落ち着いて学習できない環境に置かれている児童が学校で学習して帰ることができることに重点を置き、放課後学習に力を注いでいきたい。

また、質問紙調査の「読書は好きですか」という質問に対して、どの学年も肯定的回答は 85%をだが、「学校の授業時間以外に 1 日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか」という質問では「30 分よりすくない」と回答した児童が 3年 27.5% 4年 30.4% 5年 31.6% 6年 44.4%という結果である。家庭での読書は定着していないことが分かる。今後も家庭での読書時間を増やす啓発活動をするとともに、子どもが学校生活でも本にふれる機会を増やす必要がある。その為に、図書室の充実を図るなど環境整備するとともに、読書ノートの記録より読書冊数を増やすなど、読書の意欲を高める工夫を図りたい。また、**保護者による読み聞かせに加え、民生委員による読み聞かせ運動も始める。**

○新学習指導要領を見据えて

「主体的・対話的・深い学び」の推進
特に「対話的な学び」に重点をおき、主体的に学習に取り組むための研究を行う。授業中に立ち歩いたり、授業妨害を行ったりする児童はいない。その反面、指導者の示をまつなど、積極的・主体的に学習できず、受け身的な傾向がある。対話的な学びを

通して、主体的な学習が生まれ、「対話」することにより、深い学びとなっていくと考えている。友だちや指導者と話し合って学習する場面を多く取り入れたい。

本年度は英語学習をさらに全学年で進めいく。特に聞くこと、話すことを重点に行いたい。

○体験的な学習活動の重視

本年度も社会事象を直接見たり、聞いたり、触れたり、また人と出会い話をしたりすることを通して、自分の生活との関連などを具体的に考えたり、行動したりすることができるように体験的な学習活動を多く取り入れたい。

②体力の向上について

全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、男子では上体起こし、上体越し、長座体前屈、反復横とび、20m シャトルラン、ソフトボール投げで、女子では、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳びなど全国・大阪市平均を上回っている。しかし、全校的にはソフトボール投げで課題が見られる。今後、運動の楽しさにふれる機会を増やす取り組みを進める中で、バランスのとれた体力・運動能力の向上をめざしていく。日常の遊びにも重視し、外遊び週間やたてわり遊び等、児童会活動の中に組み入れ、楽しく体力をつけていくことができるようにしていく。また、全校をあげて姿勢体操に取り組み、家庭とも連携して、体幹を鍛えていきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○平成 32 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を 90%以上にする

○平成 32 年度の校内アンケートで「先生や友だちに自分の思いや気持ちを話せている」と答える子どもの割合を 90%以上にする

○平成 32 年度の子どもアンケート、保護者アンケート、地域関係者アンケートともに「きちんとあいさつをする」の項目の肯定的な回答の割合を 95%以上にする。

○平成 32 年度の保護者アンケート、地域関係者アンケートともに「学校は子どもの安全確保に積極的に取り組んでいる」項目の肯定的回答を 95%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○平成 32 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、平成 28 年度(3 年 88 4 年 92 5 年 86 6 年 92) より向上させる。

○平成 32 年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童(生徒)の割合を 85%以上にする。

○平成 32 年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学校の授業時間以外に、ふだん 1 日当たりどれぐらい、勉強をしますか。」に対して、30 分以上を回答する児童の割合を 70%以上にする。

○平成 32 年度の校内アンケートで「運動したり、外で遊んだりすることは好きだ」という項目の肯定的回答を 90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

○平成 31 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。

○平成 31 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を85%以上にする。

○平成 31 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。

○平成 31 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

平成 31 年度の校内アンケートで「学校は楽しい」と答える児童の割合を 80 %以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○平成 31 年度の小学校学力経年調査における標準化得点（H30 年度 3 年 96. 3、4 年 94. 8、5 年 90. 3）を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

○平成 31 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。

○平成 31 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる。

○平成 31 年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童(生徒)の割合を、前年度より増加させる。

○平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を、前年度より向上させる。

学校園の年度目標

○児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○令和元年12月の校内調査において、いじめについてアンケートに記載された件数は8件であった。そのすべてについて、詳細に調査した結果、解消した割合は100%であり、目標を達成した。

○令和元年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目において、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合は86%であり、目標の85%を1%上回った。

○令和元年12月の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数は、前年度・今年度ともに0件であり、目標を達成した。

○令和元年度において、新たに不登校になる児童の割合は0%であった。

○令和2年1月に実施した校内アンケートで「学校は楽しい」と答える子どもの割合は79%であり、目標の80%を1%下回った。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和元年度の小学校学力経年調査における標準化得点は、4年96.5、5年99.2、6年96.7であり、前年度の得点を同一母集団で比較したところ、4年は0.2、5年は2.9、6年は6.4上回った。

○令和元年度の小学校学力経年調査における正答率が、市平均の7割に満たない児童の割合（同一母集団で比較）は、4年は23.5%で前年度と同じ、5年は15.8%で前年度よりも5.9%減少、6年は17.6%で前年度よりも2.4%減少した。

○令和元年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合（同一母集団で比較）は、4年は5.9%で前年度よりも5.9%減少、5年は15.8%で前年度よりも7.1%増加、6年は11.8%で前年度よりも3.2%減少した。

○令和元年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は59.8%で、前年度の75%より15.2%減少した。

○令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であったソフトボール投げの記録は、男子が25.69mで前年度の24mから1.69m向上した。女子は、13.11mで、前年度の12.89mから0.22m向上した。

○児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」と答える子どもの割合は81%で目標の80%を達成した。

大阪市立 大国小学校 令和元年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○平成 31 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。</p> <p>○平成 31 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を85%以上にする。</p> <p>○平成 31 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p> <p>○平成 31 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成 31 年度の校内アンケートで「学校は楽しい」と答える子どもの割合を 80%以上にする</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策2 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>登下校の安全確保に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○登校時に、教職員が地域のポイントに立ち、児童の登校を見守る。</p> <p>○保護者（子ども安全・安心パトロール）、地域（子ども見守り隊）、関係諸機関と連携し、児童の登下校を見守る。</p>	B
<p>取組内容②【施策2 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>安心して学校生活を送ることができるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○毎月「児童理解研修会（同和教育研修会）」を実施し、児童や家庭の課題を共有する。</p> <p>○子どもたちの実態を把握し、チームで集団育成に努める。状況に応じて関係諸機関と連携しながら、対応する。</p>	B
<p>取組内容③【施策3 道徳心・社会性の実現】</p> <p>人権教育を基盤とした学習を年間計画に従い実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○地域の伝統産業である「かわ」の学習を、系統的に実施する。</p> <p>○手話体験学習、車いす体験学習、アイマスク体験学習を実施する。</p>	B

取組内容④【施策3 道徳心・社会性の実現】 すすんであいさつすることができるよう指導に努める。	B
指標 ○児童による「あいさつ運動」を実施する。また、あいさつの啓発を日常的に行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①教職員だけでなく、保護者、地域の方、区役所の方も、児童の登下校を見守ってくださっており、児童の安全確保に努めることができた。</p> <p>①高学年を中心に子どもたち自身が登校班の安全について話す場を、班別集会以外にも設ける必要がある。</p> <p>①登校班の中には、広がって歩いていたり、列の順番を守らずに歩いたりする班があり、安全のための指導をしているが、今後も課題である。また、集団登校に間に合わない児童の安全確保も課題である。</p> <p>②児童理解研修での共通理解や、関係諸機関と連携した対応に努めた。今後は課題とする児童の行動の報告にとどまらず、その背景や要因に何があるのかを分析し、今後の対応を考える場が必要である。</p> <p>③年間計画にしたがい、かわの学習や車いす体験などを行った。人権感覚や人権意識が高まってきているが、個人差があり、人権意識が十分でない児童もいる。</p> <p>④教室内ではすすんであいさつする児童が増えてきているが、校外ではあまりあいさつをしていない様子。</p> <p>④あいさつの声が全体的に小さい。あいさつの大切さを学級でさらに指導し、職員から良い挨拶の見本を見せることで、あいさつする心を育てることが必要である。</p>	
改善点	
<p>①遅刻する児童の、登校時の安全確保も課題なので、遅刻する児童に対しての指導を引き続き行っていくたり、その児童の家庭とも連絡を密にとったりすることで、遅刻児童数減少に努める。</p> <p>①学期始めに行う集団登校班別集会だけでなく、登校班の班長、副班長会議を開くことで、集団登校の様子を話し合い、必要に応じて指導する。また、高学年を中心に安全について考えさせる時間をつくる。</p> <p>②個の課題対応だけでなく、グループや集団での課題についても、報告だけでなく改善に向けた話し合いを設けることで、「子どもを見る目」を養う。</p> <p>③これまでの学習を続けるとともに、研究授業や人権教育では、支える仲間づくり（学級づくり）に焦点を当てた取り組みを行っていく。</p> <p>③人権学習を日常の生活指導と結びつけるように、意識して指導していく。</p> <p>④あいさつの大切さを学級や朝会、集会等でさらに指導し、職員から良い挨拶の見本を見せることで、あいさつする心を育てる。</p>	

大阪市立 大国小学校 令和元年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○平成 31 年度の小学校学力経年調査における標準化得点（H30 年度 3 年 96.3 4 年 94.8 5 年 90.3）を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○平成 31 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。</p> <p>○平成 31 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる。</p> <p>○平成 31 年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童(生徒)の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を、前年度より向上させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成 31 年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策4 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>子どもたちが英語に慣れ親しみ、楽しく学べるように指導する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○全学年で週 2 回 15 分、英語のモジュール学習に取り組む。</p> <p>○中学校の先生や C-NET と連携して、指導に取り組む。</p>	B
<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりに応じた学力向上への取り組み】</p> <p>学び合いや体験的な学習活動に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○子ども同士が学び合う授業に取り組む。</p> <p>○体験的な学習活動を行うために、校外学習を実施する。</p> <p>○年に 1 回、鑑賞会を実施する。</p>	B
<p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりに応じた学力向上の取り組み】</p> <p>学ぶ楽しさが感じられる授業をめざして、授業実践や研修に取り組む。</p>	A

指標 ○自主研修会や外部講師を招いた研修会を開く。	
取組内容④【施策5 子ども一人ひとりに応じた学力向上の取り組み】 語彙や読書量を増やすため、言語力の育成や読書活動の充実に取り組む。	
指標 ○週1回読書タイムや月1回ボランティアによる読み聞かせ活動を行う。 ○自分の国語辞典を持って、辞書引き学習に取り組む。 ○朝に「グッとタイム」を設け、音読や視写、計算などに取り組む。 ○漢字検定に全校をあげて取り組む。	B
取組内容⑤【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成施策】 健康や体力に対する意識を向上させ、運動が好きな子どもを増やす。	
指標 ○集会や休み時間に、全校をあげて運動や遊びに取り組む。 ○健康や姿勢について、日常的な指導や学期に1回保健指導を行う。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①英語モジュールや、中学校の先生・C-NETと連携した指導に取り組み、英語に慣れ親しめている。 ②学び合える内容や場面を考えながら、ペアトークやグループワークを取り入れた。 ②校外学習によって体験的に学んだり、鑑賞会を実施したりした。 ③自主研修会や外部講師を招いた研修会を何度も開き、全校をあげて取り組んだ効果は大きかった。 ④読み聞かせ活動、グッとタイム、漢検に全校をあげて取り組めた。特に音読や漢字学習については、成果が表れている。 ④図書委員会による掲示や、補助員による読書啓発を行い、自主的に読書する子が増えつつある。 ⑤冬でも外遊びするように全校長縄大会を3回実施した。 ⑤健康や姿勢について保健指導や掲示物の工夫を行い、特に健康委員会による2回の発表が効果的で、興味を持つようになった子どももいる。	
改善点	
①英語モジュールを週2回にし、大阪市のカリキュラムに沿って、全校をあげて外国語学習に取り組む。また、教員の研修機会を増やす。 ②効果的な学び合いについてさらに研修を行い、日々の授業の中でペアトーク・ミニグループワークなどを取り入れる。 ③学団部会でも、教材や授業について話し合うようにする。 ④学力向上のため、基礎基本の定着と集中力向上のためのグッとタイムは、改訂して継続するとともに、個別指導も含む徹底反復やテスト分析について、さらに研究と研修を重ねる。 ④読書活動推進のため、図書委員会だけではなく、日々の国語学習で並行読書を推進したり、本の紹介をしたりする必要がある。 ⑤長縄大会だけでなく、全校をあげて個々の体力を上げる取り組みもしていく。	